# シンナガサキみーてぃんぐ開催レポート

## ｉｎ磨屋地区

令和７年１月29日（水）、自治会や青年部、消防団、景観振興会等17人の皆さんにお集まりいただき、磨屋地区の「シンナガサキみーてぃんぐ」を開催しました。

自己紹介では、踊町となるくんちへの意気込み、磨屋の持つ魅力を活かした地域振興、より良い町を作るために行っていること、磨屋で暮らしていく中で感じていること等をお話いただきました。

## いただいたご意見

### ①自治会への加入呼びかけについて

市では「じちかいレボリューション」等の取り組みを通じて、自治会への加入を呼びかけていると思うが、それ以外にどのような対策を考えているのか

| | |
|---|---|
| 市の考え方<br>回　答 | 自治会加入促進の取組みとして、若者世代に対しては、自治会加入促進動画「じちかいレボリューション」を作成し、SNSや市街の大型ビジョン等、二十歳のつどい（旧成人式）での放映を行っているほか、若者向けの自治会加入促進チラシの作成・配布や大学の入学オリエンテーションでの説明会を行っています。<br>市職員においては、新規採用職員や自治会未加入の職員に対し、地域活動の重要性の説明及び加入申込の受け付けを行っているほか、退職予定者に対し、退職後の地域活動への参加をお願いしています。<br>また、毎年11月を自治会加入促進月間として「加入促進キャンペーン」を実施し、新規建設マンション等への自治会加入の働きかけ、企業を通じた自治会加入依頼などを行っています。<br>これら自治会加入促進の取組と併せて、役員等の担い手確保策の実施も必要であると考えているため、自治会の役員等を対象として、担い手育成研修を開催し、外部講師によるグループワーク（自治会活動の課題やその対応策）を実施しています。<br>さらに、自治会運営の負担を軽減するために、自治会への電子回覧板の導入支援など、ICTを活用した情報共有について取組を進めています。 |

### ②市庁舎跡地の文化施設について

くんちの練習をしているとき、音がうるさいなどの声もあり、十分な練習ができないため、市庁舎跡地の文化施設については、防音設備が整った部屋を作って欲しい。

また、南山手にある踊り町の山車を収納している倉庫をこちらに移転することを提案する。

| | |
|---|---|
| 市の考え方<br>回　答 | 長崎市新たな文化施設基本計画において、ホール、創作・イベントルーム（リハーサル室（小劇場））、創作活動室（練習室・ミーティング室）を遮音性能に配慮することとしております。<br>また、市庁舎本館跡地及びその周辺については、まちづくりを進めるうえで極めて重要な場所であることから、この場所のポテンシャルを最大限に引き出し、地域活性化や賑わいの創出、市の財政負担の軽減につながるよう、民間活力の導入について、直接の対話により、市場性の有無や実現可能性、民間事業者の参入意欲等を把握することを目的としてサウンディング型市場調査を行ったところであり、今後、内容を掘り下げる導入可能性調査に着手することとしております。<br>今後の設計や管理運営計画策定段階において、市内のホールの機能や規模、利用状況等を踏まえ、新たな文化施設に必要な設備等の利便性や効率性等を検討するとともに、市民の皆さんが様々な芸術文化に身近に触れることができる施設となるよう検討してまいります。 |

### ③案内の多言語化について

海外からの観光客向けの案内板はおもに日本語と英語が使用されており、中国語や韓国語の表記がやや少ないため、　案内の多言語化を行って欲しい。

| | |
|---|---|
| 市の考え方<br>回　答 | 令和6年度において、主要観光施設への２次交通利用のアクセス改善のため、多言語表示板7箇所の整備を行いました。観光案内機能の整備については、経済再生アクションプランでも「松が枝国際観光船埠頭の２バース化等の新たなニーズも見据え、ハード面、ソフト面の両面から観光案内機能の強化を図る。」こととしていることから、多言語案内板の充実に加え、32言語に対応した翻訳機器の導入を「総合観光案内所」及び「旧英国領事館」に予定しています。 |

そのほか、「くんちの関係で市の施設を使用する際、使用料を免除して欲しい。」、「公民館を建設して欲しい。」、「商店街活性化のために条例を制定して欲しい。」等のご意見をいただきました。

いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。

## 鈴木市長のひと言

それぞれの立場で地域を元気にするために一生懸命取り組まれているということ、そしてこの地域に対する熱い想いを持っていらっしゃるということが伝わってきました。

今までどおりのやり方では、色々なことが成り立たなくなっているという地域の現状もよく分かりましたので、市として何ができるかを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

## 参加者からの感想

積極的に意見がでていて、1つ1つに市長が丁寧にコメントされていたので良かった。

人口減少により経済規模は縮小していくので、くんちを含めた文化事業を継続できる財源確保が必須と感じた。

いろんな意見と問題点が共有できて良かった。

話がどうしてもくんちの話になってしまうところがおもしろかった。

発行：令和７年８月　長崎市企画政策部広報広聴課